

○小中一貫教育の成果・課題の把握，情報の収集・分析

1. 小中一貫教育の導入状況

- 実施市町村数：全 58 市町村 1 組合のうち 3 市町村
- 小中一貫校設置状況：義務教育学校 2 校／併設型小・中学校 2 件
(市町村数・学校数等は平成30年 5 月 1 日現在)

2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
 - ・本県においては、制度的基盤が整備される以前から小中一貫教育に取り組んできた市町村や学校がある。このような市町村や学校では、10 年以上かけて蓄積された取組の成果があり、小・中の円滑な接続を図ることができていることから、小中一貫教育が注目されるようになってきている。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
 - ・中 1 ギャップの解消，学習意欲の向上，チャレンジ精神や自尊感情の高揚等の一方策となり得る小中一貫教育について，協力町の教育委員会及びモデル校における取組の成果と課題を分析するとともに，県内の先進的取組事例を収集し，福岡県小中一貫教育の手引を作成することによって，本県の市町村における小中一貫教育に係る取組を支援する。

3. 本調査研究において取り組んだ内容

【福岡県における取組内容】

●小中一貫教育の成果・課題の把握について

- ・小中一貫教育の成果・課題を把握するために，協力町及びモデル校を指定した。協力町及びモデル校に対して，県内の先進的取組事例をもとに，モデル校の取組の成果や課題，課題への対応策等の検討や分析を行い，小中一貫教育に係る取組を支援した。
モデル校では，地域の特色を生かし，小・中学校教職員による合同研修会や授業交流，児童生徒の交流活動など様々な取組を実践し，児童生徒の学習意欲の向上，将来目標の設定，チャレンジ精神や自尊感情の高揚等に関する変容を把握するための児童生徒アンケートを実施した。

<アンケートの主な項目>

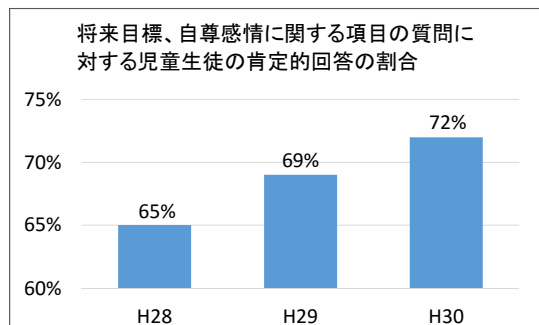
- 授業などで，学級やグループの中で自分たちの課題を立てて，その解決に向けて情報を集め，話し合いながら整理して，発表することができているか。
- 授業で学習したことをもとにして，自分で振り返り，復習することができているか。
- 自分の考えや行動，感情がどのような状況かを自分で客観的に判断することができるか。
- 将来の夢や目標をもっているか。
- 自分には，よいところがあると思うか。
- 地域や篠栗町のために何か役に立つことをしたいと思っているか。
- 自分で地域や篠栗町に興味・関心をもち，自分は何をすべきかを考え，篠栗町のための活動に参加しているか。
- 自分で地域や篠栗町のための活動に参加してうれしかったことがあるか。

- ・協力町では，各中学校区の特色を生かした取組の支援や保護者への周知を図り，小中一貫教育の取組の成果や課題を把握するための保護者アンケートを実施した。

<アンケートの主な項目>

- 町内の小・中学生が地域の行事や活動に自ら積極的に貢献しようとしていると思うか。
- 町内の小・中学生は地域の活動において役に立っていると思うか。
- 小・中学生の家族愛や郷土愛を育むための体験活動を，学校や地域と協力して可能な範囲で取り組みたいと思うか。
- 篠栗町小中一貫教育についての研修会に参加して，詳しく説明を聞きたいと思うか。

- ・児童生徒アンケートを 3 年間実施した結果，児童生徒の学習意欲の向上，将来目標の設定，チャレンジ精神や自尊感情の高揚及び郷土愛や社会貢献意欲の高まりを確認することができた。また，保護者アンケートの結果を参考に，各校で主催する学校行事に，校種を越えて子供たちを参加させるようになった。このことにより，小中一貫教育に対する地域からの関心の高まりや理解の深まり，学校・家庭・地域が一体となって子供を育てていこうとする気運が高まった。



●福岡県小中一貫教育推進協議会における情報の収集・分析について

- ・学識経験者、県教育委員会担当者、協力町の教育委員会担当者及び校長代表、県内の先進的取組を行っている3市町の教育委員会担当者及び校長代表を構成員とする福岡県小中一貫教育推進協議会を開催し、主に次のことを協議した。

- 協力町の小中一貫教育の取組の成果と課題の確認及び今後の方向性
- 先進的取組から見えてきた小中一貫教育を推進する上での留意点
- 福岡県における小中一貫教育の在り方
- 「福岡県小中一貫教育の手引」に掲載する内容

- ・福岡県小中一貫教育推進協議会での協議により、福岡県における小中一貫教育のとらえと目的を明確にするとともに、協力町等の取組の成果や課題の把握、今後の方向性の確認等を通して、小中一貫教育を推進するに当たっての主な留意点を6つにまとめることができた。

【小中一貫教育のとらえ】

小学校及び中学校が、同じ教育目標のもと、目指す児童生徒像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、協働した組織のもと行う系統的な教育

【小中一貫教育の目的】

- 中1ギャップの解消、児童生徒の学ぶ意欲の向上及びチャレンジ精神や自尊感情の高揚。
- 地域との連携、協働の中で、教師の児童理解・生徒理解を深め、教師の授業観・指導観を一致させ、義務教育9年間の系統性を確保した教育活動を行う。

【小中一貫教育を推進するに当たっての主な留意点】

- 推進組織づくり
- 目指す児童生徒像、重点目標の共有
- 教職員の連携
- 児童生徒の交流
- 9年間を見通した教育課程
- 家庭・地域との連携、協働

- ・福岡県小中一貫教育推進協議会での協議の結果、県内の市町村教育委員会や学校の小中一貫教育に係る取組を支援するための、「福岡県小中一貫教育の手引」を作成することができた。

(URL <http://gimu.fku.ed.jp>)

4. 本調査研究において取り組んだ内容

【本調査研究に協力した市町村における主な取組内容】

篠栗町

●小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組

- ・将来の目標をもって人や地域に貢献しながら自分を高め続ける子供を育てることを目標とする小・中をつなぐ「篠栗町志教育カリキュラム」を作成・実施し、指導内容・方法を検証するとともに、カリキュラム及び指導の改善を行う。このカリキュラムは、総合的な学習の時間を中心に、関連する道徳、特別活動、学校行事で構成される。
- ・小・中学校の9年間を通して、学年の発達段階に応じながら、統一的な学習方法を設定し、思考力・判断力・表現力を育成する授業を実施する。その際、課題や解決方法を決定するまでの過程、互いの考えの相違点や関連性、自分の考えや意識の変容の3点を可視化できるようにする。
- ・小・中相互の乗り入れ授業、合同行事、学校・家庭・地域の連携に関する仕組みを構築する。特に、学校・家庭・地域の連携については、志教育カリキュラムで体験活動を意図的・計画的に位置付け、身に付けさせる資質・能力を共有し、地域貢献活動として実施する。

5. 今後の取組

●福岡県小中一貫教育の手引を活用した支援

- ・小中一貫教育の導入を検討している市町村教育委員会及び学校に対して、小中一貫教育を推進するにあたってのポイントの提示等の支援を行うとともに、すでに小中一貫教育を導入している市町村に対して、取組が充実したものになるように、先進的取組事例の情報提供や教育課程編成等の支援を行う。

●県内における小中一貫教育の取組の状況把握

- ・県独自の小中一貫教育に係る調査を行い、市町村教育委員会の動向や取組状況や小中一貫教育の取組成果を把握する。

●管理職研修会等における協力町の取組成果の普及

- ・管理職を対象とした研修会で、協力町教育委員会及びモデル校の担当者による実践発表を行うことで、協力町の取組を含めた3年間の調査研究事業の取組成果の普及を図る。

○小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組

1. 市町村の概要

- 人口：31,424人（平成30年12月31日現在）
- [小学校] 学校数：4校，児童数 1,985人 [中学校] 学校数：2校，生徒数 975人
(学校数・児童生徒数は平成30年5月1日現在)

2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
 - ・児童・生徒の様々な教育課題の解決のために、小中学校全ての教員が、共通の課題意識をもち、篠栗町の強みである地域力を生かした学校・家庭・地域が一体となった意図的・計画的な教育活動や、その指導の充実・改善を推進していく必要があると考えた。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
 - ・「これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力」のうち、小中一貫教育のコア・カリキュラムを通して育成する力を「自己実現力」「人間関係形成力」「社会参画力」の3能力に焦点化し、「ひと・社会に貢献しながら自分を高め続けることができる子供」を系統的な指導を通して育成する。

3. 本調査研究において取り組んだ内容

- 小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組について

【課題分析】

- ・学校・家庭・地域が一体となった「志教育」の指導体制を各学校に確立させる必要がある。
- ・「志教育」の学習活動を「主体的・対話的で深い学び」とする教師の指導力向上を図る必要がある。
- ・発達段階を考慮した(幼)小中一貫の系統的な教育活動の充実を図る必要がある。

【目標設定】

- ・地域貢献活動を中核にした「篠栗町志教育カリキュラム」を各学校で作成し実施する。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した職員研修を小中合同で定期的実施する。
- ・小中の統一的な授業構想に基づき、統一的な学習方法を各学校で設定し実施する。
 - ア 小中共通研究主題「豊かに学び続ける子供を育てる教育活動の創造」
 - イ 「北育メソッド」→思考の見える化、生徒指導の3機能を基盤とした小中共通の学習指導法
 - ウ 「志(夢)ノート」→1日の振り返りから主体的な家庭学習へつなげる小中共通のシステムノート

【計画】

教育委員会が作成した「篠栗町志教育カリキュラム」の試案を基に、各学校の小中一貫教育コーディネーターと協同して編成し、さらに地域・家庭と内容を検討できる協議会を定期的実施する。また、小中一貫教育を推進する各校区の組織に全職員が参画できる3部会（環境作り部会・授業作り部会・基盤作り部会）を設定し、授業作り部会では、小中の統一的な授業構想に基づき、計画的、効果的な指導方法を考案する。

【実施】

1年目 <ul style="list-style-type: none">・教育委員会による基本方針作成及び周知・小中一貫教育推進委員会・協議会の発足(カリキュラム審議等)・「篠栗町志教育カリキュラム」の試案提案	2年目 <ul style="list-style-type: none">・小中一貫C研修において「篠栗町志教育カリキュラム」の実施・カリキュラムに基づく小中合同研修、小中合同行事、合同地域貢献活動の実施	3年目 <ul style="list-style-type: none">・新たな小中合同行事、小中合同地域貢献活動の開発とカリキュラムへの位置づけ・モデル校区外校区の小中一貫教育推進（目指す子供像統一等）
--	---	--

【成果】

各校種の学校行事への参加交流や小中合同行事の実施の是非について保護者アンケートを実施したところ、保護者からの肯定的回答の割合が高かった。このことから、保護者の意見・要望等を可能な限り反映した取組（中学校体育会の一部種目への小学校高学年の参加、小学校体育会の運営面における中学生による受付、救護ボランティア等）を実施した。このことにより、地域からの小中一貫教育に対する関心が高まり、小中一貫教育への理解が深まった。合わせて、学校・家庭・地域が一体となって子供を育てていこうとする気運が高まり、校種間の組織連携が進んだ。

4. 今後の取組

- 町内全校区の学校・家庭・地域が一体となった(幼)小中一貫教育の推進
 - ・私立幼稚園、保育園等との連携
 - ・「志教育カリキュラム」の充実・改善及び学校・家庭への浸透
 - ・小中一貫教育の充実を目的とした設備・環境等の充実
 - ・小中合同学校運営協議会、地域学校協働本部の設置